

## ○50年前（1968年）の切手趣味週間シートと去年（2017年）発行の切手趣味週間シートとの比較

切手趣味週間は、切手趣味の普及が目的である。趣味といっても色々であり、一般的には、能動的な趣味と受動的な趣味に大まかに、分類されると考えられる。能動的な趣味とは、マラソン、ゴルフ、卓球等のスポーツであり、若い時しか行えないのが難点であるが、健康的である。受動的趣味として、お宅族の切手収集は有名だが、部屋に閉じこもり、一概に、健康とは言えず、年を取っても出来ることが長所である。最近では、マンホールの蓋の写真に注目するお宅族も、鉄道マニア同様に目を見張る。仕事を離れて、何かに興味・趣味を持たなければ、仕事だけの人間になり、つまらない感じがする人間になると思われるのだろうか。

切手趣味週間に話を戻すと、50年前は、1968年で、東京オリンピックも終わり、大阪万博を待つ年で、明治100年に当たる。その為か、明るい色が晴れ着等のインクに使われている。去年発行のシートと比較すると、同じ切手が10枚印刷されて、1シートを構成していて、シート自体に、飾りもなく、いつの間にか、現代の連刷切手に変更されている。進歩といえば進歩だが、当時、テレビの番組を変えるに際して、チャンネルがあったが、今では、リモートコントロールに、徐々に、変わってしまった。即ち、いつの間にかに、切手を単片で集めようとはせずに、余儀なくシートで集めさせるように、郵政省から、JPに代わり、自ずと、そうなったみたいです。その為、切手一種の発行枚数も、数千万枚から、数百万枚に抑えられる効果を持ち、切手一つ一つの印象も薄くなった感がする。今の切手は、シートとして、思考された修飾も施されて、時代を反映して、立派に仕上がっていると思える。しかし、電子メールの発達とは、何時、手紙、はがきの手書きの発展に、止めを打つ時代が来るのでしょうか。50年間、運よく、私のストックブック中で生き残った切手趣味週間のシートだが、こんな余生を送りながら見ると、その間の長さを思う。



1968年 (50年前)



PHILATELY WEEK  
2017



切手趣味週間

燕子花园屏風  
尾形光琳筆  
尾形光琳書  
尾形光琳繪

平成29年4月20日

株式会社郵政印刷

2017年 (去年)